

# Principal Correspondence

勉強は**急がば** **回れ**です



リリーベール小学校は全国でもめずらしい「幼小一貫教育校」として18年前に開校しました。私たちの考える幼小一貫教育とは、幼児のうち(9歳まで)できるだけ「直接体験」を重視し(例えば、当校では教科書に載っている理科の実験は全部行います。教科書を読むだけとか、ビデオを流して終わりということはしません)知識偏重の「先取り学習」や、まるで塾のような教育ではなく、しっかり基礎、単元を反復徹底習熟し「好奇心」「探求心」を育む教育を目指しています。

子どもたちの中に眠っている多様で多彩な才能をゆっくり目覚めさせ、幼少期に「脳の器」を大きくし「自ら考え、学び行動する子」に育てることが大事だと考えています。

とはいえ授業時間数が公立校より20~25%多いですから習熟をしっかりやっても、例えば算数が5年生の後期には6年生の領域に自然に入っていく様なことはあります。

また、今年は後期から実験的に3~6年生に「すらら」学習システムを試用し、主要科目のつまずきをさかのぼって自習し(学年を遡ることもできます。),あるいは興味がある子は中学の算数や英語などに踏み込んで学習できるような取り組みを行っています。

(はじめの話に戻るようですが)「それでは先取りして1~2年生からタブレットをもってやらせたら?」という方もおられるかもしれませんが、しかし9歳までは、遠回りの様ですが、手を使い、鉛筆で漢字を書くこと、筆算をすること、ノートに線を引き、図形を描くことなど

「基礎体験」をしっかりやるのが、能力を伸ばすには最も近道であることをご理解ください。



# Principal Correspondence

## 創造性とリーダーシップ

あるとき、宇宙飛行士(astronaut)の星出彰彦さんの講演をお聞きしました。星出さんはつくば市で中学、高校を過ごし、宇宙に2回、それも2回目は国際宇宙ステーションに4ヶ月滞在した人です。宇宙飛行士として、もっとも必要な条件を問われると！



「**臨機応変の対応**(不測の事故の危険から、今ある条件と選択肢の中であの手この手を考えて解決する力、つまり創造性)」



「**人間関係構築能力**(狭い宇宙ステーションで何人もが何ヶ月も働くとき、目標を掲げて意見をまとめる力、思いやる力、つまりリーダーシップ)」と挙げておられました。

このふたつの能力を、実は人間性知能, HQ(humannity quotuent)と言います。ヒトの持つ多重知能(数学論理的知能, 言語的知能, 身体体育的知能, 音楽的知能, 絵画的知能, 空間把握的知能)などを使いこなすコンピュータでいうOSの役割をする人間性にとって決定的に重要な知能と言われます。

多重知能のそれぞれの才能を伸ばすことは必要ですが、この**人間性知能を伸ばすことは幼少期に最も重要です。**

HQは、現代では無くなってきてしまった集団の群れ遊びの環境に放り込むことが良いとされています。そこでのケンカ, 問題解決, ルール決め, 思いやり, 助け合い, 年下を慕う, 年上を慕うような経験を積ませることです。学童クラブはまさにその場です。

最後に星出さんは宇宙飛行士の試験に2回落ちたそうで、3回目に合格して今の地位になったそうです。あきらめずに挑戦することの重要性を強調されておられました。

余談ですが、そのとき2回目に合格したのは、野口聡一宇宙飛行士。彼は幼少期ボーイスカウトで(ボーイスカウトのモットーは「備えよ常に。」), すでに臨機応変の創造性が身につけていて、HQは相当高かったと思われる。

